KSKPゆめごよみ風だより 第３種郵便物承認 通巻12518号　2023年9月6日　発行

編集人　特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

**ゆめごよみ風だより104号**

**INDEX（みだし）**

**・障害者はいつ「市民」になれるのか**

**・あれから5か月、被災地はいま～トルコ・シリア地震の現場から～**

**・原発事故の最良の避難計画は、GX法(脱炭素電源法)をなくすこと**

**・業務継続計画（ＢＣＰ）策定義務化に向けて**

**・リレーエッセイ　災害と障害者　第77回**

**・応援団からこんにちは！vol.6**

**・ゆめ風ネット紹介**

**・カンパをいただいた団体/事務局の動き**

**・会計報告**

**・各地からの風だより**

**・編集後記**

**・イベントチラシ（別紙）**

**障害者はいつ「市民」になれるのか　理事／らんがく舎　うだがわ　のりお**

2006年にゆめ風基金から出された「障害者市民防災提言集」の書名には驚きを覚えたものです。「障害者市民」との呼称が新鮮だったからです。昔、東京で教員をしていた私にとっては大阪の障害児教育の実践は学ぶことが多かったのですが、防災の世界に転じても学ぶことが多いと思わされた一言でした。

しかし現実の社会はこの言葉を内実化するように変化していったでしょうか。東日本大震災での人的被害で、障害者の死亡率は全体の死亡率1.03%の2倍2.06%であるとよく言われます。このデータはNHKが被災市町村に障害者手帳所持者の死亡者数を照会してまとめたものです。ですから回答しない市町村もあります。大きな被害を出した陸前高田市、気仙沼市等は回答なしですし、調査地域も最北は宮古市、最南は福島県新地町ですから、青森県や茨城県、千葉県の調査が入ったら数字は変わる可能性があります。

しかし地震以来このデータだけが東日本大震災で障害者が受けた生命被害を示すものとして使われ続けています。全体の人的被害について各市町村は当然全数把握をしており、公式発表の元となっています。しかし障害者についての公的記録はありません。いちど厚労省の方に直接聞いたことがあります。「厚労省ではこのようなデータをとっていますか？」NHKのどのデータかも知りたいと言われたので添付してメールしたのですが、残念ながら返事はもらえませんでした。

このデータを詳細に見ると別の様子が見えてきます。人口全体の死亡率に比して障害者の死亡率が際立って高い市町村があることです。地元の方に伺うと海沿いに施設があったとのことで、もともと行動しにくいハンディを抱えた人々に避難の時間的余裕がなかったことが伺えます。

今年は関東大震災から100年、大津波が奥尻島を襲った北海道南西地震から30年と大きな災害の節目の年となっています。人間は忘れやすいものですから、せめて節目の年にはきちんと見直しをして教訓を生活に落とし込みたいものです。しかし障害者にとっては日々の暮らしが綱渡り状態のため「毎日が災害のようだ」とこぼす車椅子利用の友人もいます。だからといって災害大国日本に住んでいる以上、防災・減災の備えは欠かせません。

自分でできなければ他人に頼むしかありません。そのツテがないなら様々なネットワークを利用して情報を得て、防災・減災対策を一歩でも前に進めないと大変な目に会うのは、映画「逃げ遅れた人々」に出てくる障害者の姿を見ればわかります。他者に頼むのは気が引ける、自分でなんとかしなければダメだと思いがちです。教育も自分でなんとかできるようにする力を広げることを目標にしています。前号で永村さんがお書きになったラーメン屋でのある障害者の「おばちゃん食べさせて」はすごい発言です。このようなやりとりが普通にできる社会だったらどんなに暮らしやすいことかと思います。災害時、みんなが困っているときに、①みんなが困ってるから我慢しなきゃ、②この困り事は自分ではどうしようもないから何とか助けてほしい、どちらが必要な対応かは考えるまでもなくわかるはずですが、日本人の心情としては①になりやすい気がします。

だからこそ日ごろからいろいろな場所に出没して地域の有名人になること、そして最低限の防災の知識を身に付けておくことが大事だと私の地元では話しています。

阪神淡路大震災以来、各地に防災館が作られ、リアルな防災体験ができるようになりました。これらの施設は当然参加した人々が防災対策を進めるきっかけにすることを目的として作られています。であるなら多くの市民が参加し体験することが望ましいはずです。にもかかわらず、車椅子利用者が起震室体験を断られるという事態が最近起きました。「危険だから」というのが理由だそうです。確かに車椅子利用者は床に這いつくばって身を守ることもできず、下手をすれば車椅子ごと吹き飛ばされるかもしれません。であれば、どうすれば車椅子利用者が身を守れるのかを本人も周りも考えていかなければ「危険」から身を守ることができないはずです。

「障害者市民」と当たり前に認知されるにはまだまだ遠いこの国のようです。

**あれから5か月、被災地はいま～トルコ・シリア地震の現場から～**

**CODE海外災害援助市民センター事務局長　 よしつばき　まさみち**

2023年2月6日、トルコ南部を震源とするM7.8の巨大地震が発生し、トルコ・シリア両国で5万7000人以上が犠牲になった。

筆者は、阪神・淡路大震災を機に発足したCODE海外災害援助市民センターのスタッフとして発災4日後にトルコの被災地へと向かった。被災地カフラマンマラシュやアディヤマンでは、十数階建てのマンション群がことごとく倒壊しており、捜索活動が続いていた。現場では、いちるの希望を持って家族の帰りを待つ人たちが、たき火を囲み、悲しみを分かちあっている姿が28年前の被災地KOBEの風景を思い出させた。

夜は－6℃の凍てつく寒さの中、被災者たちは絨毯だけ敷いたテントで身を寄せ合うように暮らしていた。トルコ政府はもちろん各国の救助隊、NGO、ボランティアが駆けつけ、捜索、物資配布、炊き出しなどの支援活動にあたっていたが、中でも全国各地から駆け付けたトルコの普通の市民ボランティアによる支え合いは目を引いた。私たちが被災地のどこを訪れても、チャイ（紅茶）や炊き出しの食事を提供してくれた。

あれから5か月、被災地は猛暑の夏を迎えようとしている。被災地の町には数か所の広大な仮設住宅村ができ、子どもたちの遊び場、食堂、心理ケア施設なども整備されている。

政府による支援は、迅速かつ広範で、物資配布や住居、仕事斡旋、トラウマを抱えた子どもへのケアなどは手厚く行われている。だが、それ以外の女性や高齢者、障がいを持つ人たちへのSpecific(特有)な対応はあまり見られない。被災地のどの町も同じような作りで、目に見える画一的でトップダウンの支援が中心だ。仮設には「する事がない」、「普通

の生活に戻りたい」とつぶやく女性たちも少なくなく、被災者一人ひとりの声があまり反映されておらず、住民主体のコミュニティの形成には至っていない。
　今、CODEは現地のNGOと連携して、トラウマを抱えた子どもたちやその家族を対象にした「子どもと家族のケアセンター」の建設・運営をサポートしている。センターの幼児教育や心理ケアの先生たちは、仮設内の一軒一軒をまわり、被災者一人ひとりに寄り添った活動を実践している。

**写真キャプション　仮説に住む被災者たち（アディヤマンにて）**

**原発事故の最良の避難計画は、GX法（脱炭素電源法）をなくすこと**

**おかもと　まさあき**

1967年6月生まれ。脳性麻痺アテトーゼ型による障がい者。宇部市の脱原発グループ「いのち・未来 うべ」事務局長。「障がい者の防災・避難を考える市民の会」共同代表、事務局。

　今年2023年5月31日、脱炭素電源法が参院本会議で可決成立されてしまった。原子力発電所の運転期間の60年超への延長を盛り込んだ悪法である。一般の建物や機械でも60年超えといえば建て替えるのに、原発を動かし続けるなんて、危険しかない。原発は故障すれば暴走し、人間の手で制御できないほどの大事故となることは、12年前に起きた東日本大震災の福島原発事故を見ても明らかである。

　福島原発事故が起こったとき、障がい者が避難所に見当たらず避難していないことが、青田由幸, 八幡隆司著『原発震災、障害者は… 消えた被災者 』（解放出版社）を読んでわかった。自分の力で動くことが困難な障がい者は家族や支援者の援助がなければ避難できないし、環境の変化で多動になったり、パニックになる障がい者は避難所に行っても、周りの人に受け入れられにくいのである。

　そうしたことから私は脱原発活動と並行し、災害時の障がい者避難について考えるようになり、仲間の視覚障がい者と共同代表になり、2018年5月に「障がい者の防災・避難を考える市民の会」を立ち上げ、月に1度のペースで勉強を進めている。近年、毎年のように起こる豪雨の際の避難を障がい者が迷うことなく行うためには、個別避難計画を作ることが必要であるが、実際に作成できているのはわずかである。

　自然災害時の避難計画が道半ばであるのに、原発事故の際の避難計画なんて立てられようがない。東海第2原発差止訴訟の控訴審準備書面においても、医療施設、社会福祉施設の避難計画について述べられ、避難計画の困難性が明るみにでた。いったん事故が起これば、どこまで逃げて避難すればよいかわからないので、自然災害の際の個別避難計画が完成しようとも、それを機能させようがない。また、原発事故は終わりが見通せない。原発事故に備えるために、シェルターを作る障がい者福祉事業所があるが、それは結局のところ言い方を変えた置き去りである。福島原発事故の時のように支援者と離れ離れにされれば、命にかかわる問題にもなり、人格権の侵害となる。

　原発事故が起きた際の避難計画なんてありえない。あえて言えば、GX法をなくすことだ。

**写真キャプション「上関原発を建てさせない」と街頭宣伝する岡本さん**

**業務継続計画（ＢＣＰ）策定義務化に向けて**

**事務局長　やはた　たかし**

**なぜ今、ＢＣＰが義務化されるのか？**

福祉サービスを提供する事業所に、2024年3月末までにＢＣＰ策定が義務付けされました。いくらＢＣＰが重要とはいえ、なぜ今、義務化されるのかということには疑問が残ります。

実は国においては「地震防災戦略」及び「新成長戦略実行計画（工程表）」（2010年6月閣議決定）において、企業のＢＣＰ策定率を2020年までに大企業はほぼ全て，中堅企業は50％との具体的な目標を掲げました。ただ2021年の内閣府の防災白書によれば、ＢＣＰ策定率は大企業で70.8％、中小企業で40.2％にとどまっていることもあって、冒頭のように福祉サービス事業所にもＢＣＰが義務付けされたのではないかと考えます。

中小企業庁ホームページ「中小企業ＢＣＰ策定運用指針」を見ると次のようなことが書かれています。

「企業が大地震などの緊急事態に遭遇すると操業率が大きく落ちます。何も備えを行っていない企業では、事業の復旧が大きく遅れて事業の縮小を余儀なくされたり、復旧できずに廃業に追い込まれたりするおそれがあります。一方、ＢＣＰ導入している企業は、緊急時でも中核事業を維持・早期復旧することができ、その後、操業率を100％に戻したり、さらには市場の信頼を得て事業が拡大したりすることも期待できます」。

**福祉サービス事業所にとってのＢＣＰとは？**

しかし企業におけるＢＣＰと福祉サービスのＢＣＰは根本的な違いがあると私は思っています。ＢＣＰには必ず「重要業務の選定」「重要業務の継続」といった項目があります。企業にとっては最も収入を当てにできる事業がそうなりますが、福祉事業所にとって重要なのは、収入面よりも利用者の生活確保となります。相談支援事業で災害による相談電話をいくら受けても、収入にはつながらないので、ＢＣＰ的には休止業務となってしまいますが、実際には重要な業務です。通所の事業所で利用者が避難に困っているからと言って自身の事業所で受け入れたとしても、一切費用は入ってきません。このように福祉サービス事業では当面の収入を無視しても利用者に寄り添うことが要求される場合が、災害時には多々発生します。

ＢＣＰ策定自体は必要なことなので、ゆめ風基金では厚生労働省の例示入りひな形をエクセル形式からワード形式に変換し、内容を修正して掲載することにしました。これなら自分の事業所に合った内容に少し修正するだけなので、まず１日で完成するはずです。詳しくはゆめ風基金ホームページの障害者防災のページをご覧ください。

また災害時の対応はＢＣＰ策定だけでは不十分であり、実際の災害をシミュレーションすることが大事だと思っています。このＢＣＰシミュレーションについてもホームページに掲載しています。

ＢＣＰについて分からない、アドバイスが欲しいという方は気軽にゆめ風基金までご相談ください。

**リレーエッセイ　災害と障害者　第七十七回**

**東日本大震災と障害者**

**自立生活センター・東大和　事務員　ほしの　えり**

16歳の時に怪我で脊髄を損傷し車椅子生活となる。
現在、自立生活センター・東大和で事務をしつつ、ILP（自立生活プログラム）にも積極的に参加。その他、小学校での車いす体験授業の講師や、市内の障害福祉事業所の団体で構成されたグループ「東大和障害福祉ネットワーク」の役員としても活動。バリアフリー上映会の開催、障害福祉について情報共有のため、様々な取り組みをしている。

　私の実家は岩手県です。自然豊かで皆さんが想像する田舎のイメージがぴったりの所です。

　そんな岩手県が11年前の東日本大震災で甚大な被害を受けました。津波でたくさんの人が亡くなり、建物も津波で押し流され、よく遊びに行っていた陸前高田の松林も1本を除いてすべて流されてしまいました。私の自宅は内陸部で大きな被害はありませんでしたが、よく車で通っていた市内の橋が地震の影響で通行止めになったり、道路が液状化して凸凹になったり。特に大変だったのがガソリンや灯油が全く入ってこなくて本当に困りました。ガソリンスタンドは常にガソリンと灯油を買い求める人で渋滞、買えなくて店員さんと喧嘩している人、朝の4時頃からスタンドの前で待っている人。トラブルの話がつきませんでした。市内の障害のある人や、高齢者は灯油を優先で支給されたことがあり、その時に近所の人に「良いねお宅は、優先的にもらえて」と言われたこともありました。ちょっと傷つきましたが、毎日寒かったのでありがたく使わせていただきました。生活していくのに精いっぱいで他人を思いやる余裕がなかったから仕方ないと今では思っています。

また、妹は小学6年生で卒業式と中学校の入学式を控えていたのですが、沢山亡くなられた人や、行方不明の人がいるのにお祝い事は不謹慎、自粛すべきというムードで、例年通りのお祝い事をすることができませんでした。その時は本当に自粛しなければいけない雰囲気で町中がお通夜のようだったのを覚えています。

　大震災から11年経ちましたが、毎年テレビやラジオでどれだけ被害があったか、それからどれだけ復興したかなど放送されています。被災地について知ってもらうことはとても素晴らしい事だと思いますが、被災から何年経っても「被災してかわいそうな所」というイメージが消えないのではないかな・・・とも思います。

私自身、街中で「若いのに車いすで大変ね」、「かわいそうに、早くよくなって歩けるようになるといいね」と話しかけられる事があります。確かに歩けないし、今後も車いすで生活しなければいけないけれど、有難いことに仕事もしているし、結婚して子供にも恵まれて、障害はあるけれどとても幸せに生きています。

今、私は自立生活センター・東大和で勤務しながら市内のボランティアセンターの設置訓練へ参加したり、ヘルパー対象の防災研修会の企画をしたりしています。いつも東日本大震災は本当に大変な被害だったと話をしますが、それと同時に復興も進んでいるのでぜひ遊びに来てねとも伝えるようにしています。

被災地だから、障害者だから、という理由で「かわいそう」と思われたくない。そう思われないようにこれからも活動していきたいと思います。

**写真キャプション　池袋へ外出した時の様子**

**応援団からこんにちはvol.６**

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

**兵庫県西宮市　NPO法人**

**メインストリーム協会**

**スタッフ　ひらた　まさゆき**

メインストリーム協会の平田です。私は頚椎損傷という障害です。メインストリーム協会で役割は、新しく働く介助者の研修などを主にしています。

1989年11月11日にメインストリーム協会は誕生しました。設立した当初は数名で始まったメインストリームも、34年経った今では、当事者スタッフ・介助スタッフ合わせて49名、さらにアルバイトの介助者を含めると、200名近くにもなる大きな団体になりました。

私たちの理念は、どんな重い障害を持つ人でも地域であたりまえに暮らせる社会、誇りを持って社会の主流（メインストリーム）を堂々と生きていける社会を実現することです。

具体的な活動としては、３つの役割を柱としています。１つ目は、サービス的役割として介助派遣、その他ピアサポート、新しく地域で一人暮らしを始める人の自立生活プログラムがあります。２つ目は、権利擁護活動（行政交渉など）、３つ目は、障害者のイメージを変えることです。これらの役割を基本として、障害当事者が主体となって活動をしています。

この活動以外に、海外支援もしています。海外では、介助制度も整っておらず、障害者が生活することが難しい国がほとんどです。アジア６カ国（韓国・台湾・モンゴル・カンボジア・ネパール・パキスタン）、中南米（コスタリカ・ボリビア）など。そのような国でも、障害者があたりまえに地域で暮らすことを実現してほしいと思い支援を続けています。

**京都府八幡市**

**社会福祉法人　鳩ヶ峰福祉会**

**理事　ぬまた　はじめ**

こんにちは。社会福祉法人鳩ヶ峰福祉会の理事の沼田と申します。

ゆめ風基金さんにお世話になったのは、２０１８年６月１８日に発生した、大阪府北部地震によるグループホームの被害を通してでした。

借りていた民家の基礎部分に亀裂が入ったため、やむなく別の借家を借りて新しいグループホームを開設したのですが、改修費の捻出に苦労していた私たちに迅速に対応して下さって、本当に嬉しく心強く思いました。

私たちの原点は、今から４０数年前、１９８０年に開所した無認可共同作業所です。開所１０年後に認可施設「やわた作業所」となり利用者の数も増え、現在は八幡市以外の就労グループも合わせ６５名の方が利用しています。また、３ヶ所のグループホームで２７名の方の暮らしを守る事業、相談支援事業や短期入所事業など障がいのある人の地域生活を守る事業、障がい児童を支援する放課後等デイサービス事業など、障がいのある人が地域の中で安心して働き、豊かな生活ができるように事業と実践を発展させてきました。どんな人でも「発達を遂げていく力と権利」があると信じて、これからも障がいのある人の願い、要求に応えていきたいと思います。

**ゆめ風ネット紹介**

いつどこで災害が起きてもすぐに救援活動がはじめられるよう、全国４９の障害者団体が『ゆめ風ネット』として災害時の窓口を引き受けてくださっています。お住まいの地域で、地震や豪雨などによる被害が発生した際は、お近くの団体へご一報ください。

ネットさっぽろ　草の実会 平岸の里 011-817-9080・札幌市豊平区平岸四条17-6-6

ネット宮城　かなみの杜　0220-44-4171・登米市登米町てらいけさくらこうじ96-3

ネット秋田　秋田県被災障害者救援連合　018-846-3916・秋田市いいじまねずみた3-6-12

ネットいわき　いわき自立生活センター　0246-68-8925・いわき市中央台たかく2-26-4

ネット三条　地域たすけあいネットワーク　0256-34 -2448・三条市本町6-3-76

ネット富山　自立生活支援センター富山　076-444-3753・富山市新川原町5-9 1F

ネット福井　農と地域のふれあいネットワーク　0776-52-6464・福井市大東1-3-12

ネット上田　わっこ自立福祉会　0268-39-4568・上田市ほや830-1

ネット加賀　ひまわり教室　076-243-6786・金沢市じゅういちやまち4-34

ネット埼玉　共に生きる街づくり情報センター　048-738-4593・春日部市大場1288-1

ネットJDS　日本ダウン症協会　03-6907-1824・豊島区南大塚3-43-11　5F

ネット東大和　自立生活センター東大和　042-567-2622・東大和市なんがい1-22-6　1F

ネット立川　自立生活センター立川　042-525-0879・立川市しばざきちょう2-10-16

ネット横浜・港北区　らんがく舎　045-431-4070・横浜市港北区菊名4-10-37

ネット静岡　静岡障害者自立生活センター　054-288-6068・静岡市駿河区まがりがね5-4-58

ネットきくがわ　溝口　千津子　0537-35-8303・菊川市仲島1-12-1

ネット愛知　AJU自立の家　052-841-9888・名古屋市昭和区下構町1-3-3

ネット名古屋　わっぱの会　052-910-1001・名古屋市北区山田2-11-62　1棟1階

ネット岐阜　戸田　二朗　058-388-1864・羽島郡笠松町えんじょうじ838-1

ネット三重　共同蓮三重　059-273-6930・津市岩田12-5

ネット滋賀　まちかどプロジェクト　077-543-2844・大津市大萱5-6-8

ネットJCIL　日本自立生活センターJCIL　075-671-8484・京都市南区東九条松田町28　101号室

ネット奈良　ひまわりの家　0745-42-2919・磯城郡三宅町ともんどう850

ネットひょうご　拓人こうべ　078-642-0142・神戸市長田区大塚町6-1-1

ネットはりま　菜の花企画　0792-84-4668・姫路市東延末1-30

ネット伊丹　ポポの家　072-779-1771・伊丹市萩野2-2-3

ネットあかし　作業所ほのぼの　078-913-5315・明石市本町1-6-3

ネット淡路島　ぶったあ福祉会　0799-70-6145・淡路市岩屋488-1

ネットわかやま　自立生活応援センターわかやま　073-472-6731・和歌山市太田47-7

ネット岡山　岡山マインド「こころ」　086-697-0206・倉敷市真備町やた1679-2

ネットしまね おおた　あきお　0854-83-2183・大田市さんべちょう池田3268-3

ネットひろしま　障害者生活支援センター・てごーす　082-294-4185・広島市西区おがわちまち2-7-5

ネット尾道　障害者自立生活支援センターおのみち　0848-38-9550・尾道市美ノ郷町三成1217-1

ネットやまぐち　NPO法人 ゆうきかい　0833-76-0550・ひかりしおおあざこずおう1658-1

ネットかがわ ねむ工房　0877-73-4177・なかたどぐんことひらちょうかみくしなし422-1

ネット愛媛　ルーテル作業センタームゲン　089-924-8533・松山市きやちょう1-9-4

ネットまつやま　自立生活センター松山　089-986-3245・松山市萱町2-8-2　1F

ネット今治　作業所こまどり　0898-54-4365・今治市きくまちょうながさか2001

ネット徳島　社福)ハートランド　088-602-1003・徳島市みなみしょうまち5-13-1

ネット福岡　ちくほう共学舎虫の家　094-962-6003・鞍手郡こたけまちごとく167-31

ネット大分　むらた　ゆみこ　097-597-5315・大分市はんだだいみなみ2-10-4

ネット宇佐　みんなの家　0978-32-3365・宇佐市しみず49-3

ネットながさき　かんけつせん　0957-45-3858・大村市みぞろくまち1029-110

ネットいさはや　諫早手話ｻｰｸﾙ福祉部　0957-28-3800・諫早市うきまち726-2

ネットさが　たんぽぽの家　0952-74-4568・たくしたくまち2744-63

ネット熊本　自立生活ｾﾝﾀｰヒューマンネットワーク熊本　096-366-3329・熊本市はくざん2-1-17　1F

ネットみやざき　YAH!DOみやざき　0985-31-4800・宮崎市青葉町52-1

ネットかごしま　社福）ルピナス会　0994-63-8839・肝属郡ひがしくしらちょうしんかわにし4995-11

ネットおきなわ　自立生活センター・イルカ　098-890-4890・宜野湾市伊佐4-4-1

**カンパを頂いた団体　2023/4-2023/6**

**お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。**

**本当にありがとうございます。もしも、記載漏れがありましたらご連絡ください。**

4/4　Tea for Two（四街道市）

4/14 にしき保育園（登米市）

4/24 ゆうのゆう（大阪市）

5/8　麦っ子畑保育園（座間市）

5/9　ABC研究所（北九州市）

5/23 田辺三菱製薬労働組合（大阪市）

6/6　浜松協働学舎を支える会（浜松市）

6/7　ひまわり教室（金沢市）

6/19　そうそうの杜（大阪市）

　　　　かなみの杜（登米市）

6/21　白百の樹（横浜市）

コーヒータイム（二本松市）

6/22　得雄寺（南松浦郡）

6/24　坪井　のりお商店（昭和区）

6/26　大杉の里（上越市）

6/28　らふ　（さいたま市）

**事務局の動き2023/4～6**

2023年４月から６月の動きを一部ご紹介します。

**★毎週月曜日：事務局会議　★毎週金曜日：新HP打合せ**

4/5　ゆめ風基金 理事会

ＢＣＰ（事業継続計画）研究会

4/21　大阪災害支援ネットワーク（ＯＳＮ）世話役会

5/8　ゆめ風基金　理事会

5/10　ＢＣＰ（事業継続計画）研究会

5/15　障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議（障大連） 全体会打合せ

5/22　ＯＳＮ打合せ

5/23　神戸西区自立支援協議会 講演

5/24　ネット松山話し合い（ZOOM）

5/25　ＯＳＮ世話役会

5/27　大阪府教職員組合定期大会　参加

5/31　大阪市身体障害者団体協議会講演打合せ

6/5　天王寺区講演打合せ

6/7　ＢＣＰ研究会

6/8・9　防犯防災総合展2023セミナー参加

6/9　関西そなえ隊 第50回定例会参加

6/12　ゆめごよみ104号編集会議

6/13.14　ゆめごよみ103号通信発送

6/19　ＯＳＮ世話役会

6/21　ＯＳＮ打ち合わせ

6/26　令和5年度第1回大阪災害支援活動連携会議

6/27　障大連・全体会『防災ＢＣＰ学習会』講演

6/27　阿倍野防災センター体験

6/28　関西障害者定期刊行物協会総会　参加

6/30　天王寺区講演打合せ

**NPO法人　ゆめ風基金　会計報告**

ただいまの基金額　3億2827万1847円

これまでの救援金総額　5億8404万2595円

総会員数　1万4050人

①前回報告残高

②この3ヶ月の動き（４月から６月まで）

③今回報告残高（2023年６月現在）

収支計算書

収入の部

会費収入　①281万6510　②234万7184　③516万3694

寄付金収入　①342万9966　②326万0786　③669万0752

臨時寄付金収入　①4万7000　②148万3830　③153万0830

助成金収入　①12万2850　②80万7125　③92万9975

事業収入　①129万3832　②4万2589　③133万6421

雑収入　①9987　②0　③9987

貸付金返済収入 ①0　②0　③0

保証金返済収入 ①0　②0　③0

預り金収入　①45万1063　②54万6260　③99万7323

未収入金収入　①0　②0　③0

未払金収入　①0　②0　③0

合計　①817万1208　②848万7774　③1665万8982

支出の部

救援金支出　①200万0000　②50万0000　③250万0000

救援活動支出　①0　②0　③0

貸付金支出　①0 　②0　③0

基金拡大活動支出　①9万4547　②15万3671　③24万8218

防災活動事業支出　①18万0260　②1万1770　③19万2030

広報活動事業支出　①52万4287　②47万6434　③100万0721

その他事業支出　①18万8550　②15万2600　③34万1150

人件費支出　①313万6898　②386万1260　③699万8158

その他事務費支出　①179万6654　②150万6520　③330万3174

預り金支出　①57万8928　②40万2143　③98万1071

未払金支出　①28万0360　②0　③28万0360

固定資産購入支出　①0　②0　③0

保証金支出　①0　②0　③0

合計　①878万0484　②706万4398　③1584万4882

差引:収支差額　①△ 60万9276　②142万3376　③81万4100

貸借対照表

資産の部

基金特別会計預金　①3億2190万3205　②636万8642　③3億2827万1847

一般会計現金預金　①551万7024　②△ 494万5266　③57万1758

[現金預金合計]　①3億2742万0229　②142万3376　③3億2884万3605

障害者貸付金　①0　②0　③0

有形固定資産　①66万2896　②0　③66万2896

その他の資産　①110万0030　②0 　③110万0030

合計　①3億2918万3155 　②142万3376　③3億3060万6531

負債の部

未払金　①0　②0　③0

預り金 ①14万5297　②14万4117　③28万9414

その他の負債　①0　②0　③0

合計　①14万5297　②14万4117　③28万9414

差引:正味財産　①3億2903万7858　②127万9259　③3億3031万7117

脚注

1．今回は3月から6月までの３ヶ月間の報告です。

2．救援金は救援活動として1件の支払いがありました。（2022年トルコ・シリア地震）

3．3月の報告に誤りがあり、前回報告の一部について次のように費目替えを行っています。

　その他事務費→広報活動事業費　５万７４００円　人件費→その他事務費　１６５円

4．その他は特に大きい変動はありません。

東日本大震災　3億5012万7104円

２０１６年熊本地震　5559万8387円

２０１８年西日本豪雨　4516万4095円

２０２２年福島県沖地震　695万6790円

**そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2023.4-2023.6**

▼永さんのお話を聞きたくなっていま頃ですが、想い出は沢山あるので幸せです。本当にわずかですが送ります（南陽市）

▼少しですが、ゆめ風との縁を大切にしたいと思っています（東京都大田区）

▼『富士山はいつ噴火するのか』という本を読みました。南海トラフの放送もあり、おちつかない春です（狛江市）

▼アベさんが、いろんな人にインタビューする企画がおもしろいと思います（大阪市）

▼”たより”を読むと、自分も体に爽かな風を吹き込まれます（入間市）

▼『通販生活』で知りました。８３才お便りありがとうございます（札幌市）

▼ノーマライゼーションの考えと世界はあたり前の社会であることを、いつも応援支持しています（秋田市）

▼神尾京子さんへの追悼のエピソード心にしみました。ありがとうございます。無認可からスタートした保育園なので、たくさんのご縁なくしては今に至っていません。47年になりました（座間市）

▼誕生月を無事に迎えられたことにお礼をこめて送ります（高知市）

▼国民年金の振り込みのついでに送金します。石川県の地震災害に役立てて下さい（豊中市）

▼コロナ禍で福祉業界は対応に苦慮しましたが、また元気回復を望みます（高槻市）

▼気候変動から全ての障がい者が守られます様に（長岡市）

▼日々の暮らしが、楽しいのが当たり前になる政治ヲ！（静岡市）

▼牧口一二さんの神尾さんの話、じーんと胸に来ました（川越市）

▼永村理事の「迷惑をお互いさまに」同感！自分のチョットした行動で他人様が、喜んでくれた姿を観て嬉しくなるような人がいっぱい増えますように（寝屋川市）

▼お互い様の気持ちをこめて（静岡市）

▼心に灯りを燈します活動応援しています（枚方市）

▼わずかですが妻と合わせて寄付させていただきます（守口市）

▼還暦を迎え、記念に寄付させて頂きます（鎌倉市）

▼災害が他人事ではない日常、おたがいがんばりましょう（苫小牧市）

▼広報紙を拝見していると、普通に暮らせる事に感謝しなくてはと思い知らされます（取手市）

▼だれでもが迷惑を気兼ねなくかけられるような社会、いいと思います（大阪市）

▼リレーエッセイ高橋めぐみさんの「私は周りから守られすぎた」という言葉にハッとして、考えさせられました。高橋さん、ありがとう（荒川区）

▼弱者の生きやすい社会。これが本当の平和の世（横浜市）

▼年金は上がらず、物価があがり私もしんどいですが、被災された方々が心配です（池田市）

▼ほっとできる時間、笑い合える時が少しでも有りますようにと願います（八尾市）

▼線状降水帯など、いろいろ困った災害が多くなりましたね。自然がヘソを曲げると全ての物価高騰。困った物です（横浜市）

▼ヨーガイベントでのドネーションが集まりましたので送ります（八重山郡）

▼7月7日、永さんの命日に心ばかりですが、忘れないとの思いで（南陽市）

**編集後記**

ゆめ風基金のホームページが新しくなりました。更新中のページが多いので、すべての記事を見ていただくにはもう少し時間がかかりそうですが、一度ご覧ください。
新型コロナが５類に移行したとはいえ、まだまだ猛威を振るっています。事務局でも７月に初めて感染者が出ました。みなさまもお気を付けください。

**ゆめ風基金のＳＮＳやウェブサイト**

**Facebook yumekazefund YouTube @user-jt6wo9lk8q**

**Instagram yumekazek Website yumekazek.com**

**（別紙チラシ）**

認定NPO法人ゆめ風基金・カタログハウスの学校共催

第18回

ゆめ風であいましょう

原発と戦争を推し進める愚かな国・日本

呼びかけ人代表　こむろ　ひとし　　ゲスト　こいで　ひろあき(元京大原子炉実験所助教)

2023年10月６日（金）

午後６時開場　６時半開演　８時半終演

Ｃoｃoｎｅｒｉ(ココネリ)ホール

東京都練馬区練馬１－１７－１　Ｃoｃoｎｅｒｉ３階

西武池袋・有楽町線（東京メトロ有楽町線・副都心線、東急東横線、みなとみらい線直通）、都営大江戸線「練馬」駅中央北口から徒歩１分

一般/1,500円　高校生以下/500円

ペア割/２人で2,000円※介護者1人無料

写真キャプション　呼びかけ人代表　こむろ　ひとし（ミュージシャン）

写真キャプション　　ゲスト　こいで　ひろあき（元京大原子炉実験所助教）

撮影/かのうまさひこ

チラシ背景キャプション　ひがくれやま中腹より福島第一原発を望む。（撮影：なかすじ　じゅん）

第18回　ゆめ風であいましょう（書：そうず　あきこ）

原発と戦争を推し進める愚かな国・日本

東日本大震災から12年、福島第一原発事故では多くの福島県民が住み慣れた家や地域を奪われ、今も2万人を超える人々が辛い避難生活を続けています。その無念さは如何ばかりでしょうか?

原子炉収束のめどが全く立たない中、国は、脱原発とは真反対の原発回帰に舵をきりました。そして、敷き詰められつつある「戦争のできる国」への道。

いま、被災地で、国の中心で何が起きているのか、ご一緒に考えたいと思います。

第1部　知りたい

原子力廃絶を訴え続けて半世紀、 元京大原子炉実験所助教のこいで　ひろあきさんにお話しいただきます。

第2部　感じたい

こむろひとしさん、こむろゆいさんの歌と演奏を感じ合うひととき。

第3部　共有したい

こいでさんを囲んで、ゆめ風基金代表のとだ　じろうと同呼びかけ人代表のこむろ　ひとしさんが障害者・高齢者の1人として、(そして時々子どもの頃に戻って)これからの日本を語り合ってもらいます。

こいでひろあき(こいで・ひろあき)

工学者(原子核工学)。1949年東京生まれ。京都大学原子炉実験所で研究を続け、原子力発電の危険性を訴えた。定年退職を機に信州へ移住、各地で講演を続ける。「原発事故は終わっていない(毎日新聞出版)」、「こいであきひろ　原発と憲法9条一未来 は私たちの手の中にある(地方小出版流通センター)」、「日本のエネルギー、これからどうすればいいの？中学生の質問箱(平凡社)」、「百年後の人々へ(集英社新書)」など著書多数。

こむろひとし(こむろ・ひとし)

ミュージシャン、ゆめ風基金呼びかけ人代表。1943年、東京都生まれ。自身のライブ活動を中心に、「LagniappeJや「六文銭」などユニットでの活動の他、イベントプロデュース、テレビドラマ・ 舞台•映画などの音楽制作、ドキュメンタリー作品のナレーション、連載コラムの執筆など、活動は多岐にわたる。CDに六文銭で『自由』、たにがわ　しゅんたろう氏の詩によるソロアルバム『プロテストソング2』など多数。

こむろゆい

ミュージシャン。いくつかのバンド活動を経て、1997年、第11回青山演劇フェスティバルにてミュージカル「スパイものがたり」(別役実•作) に楽団として出演。1999年、NHK「みんなのうた」に採用された自作曲「ひとつのドア」が、FLMEよりシングルとして発売を機にCDデビュー。現在はウクレレと歌とカホンのユニット「こむろゆいとかわのしゅんじ」でのライブ活動の他、父・こむろひとしとの「LagniappeJや「六文銭」のメンバーとしても活動。

2023年10月６日（金）

開場午後６時　開演６時半

Ｃoｃoｎｅｒｉ(ココネリ)ホール

東京都練馬区練馬１－１７－１　Ｃoｃoｎｅｒｉ３階

一般/1,500円　高校生以下/500円

ペア割/２人で2,000円　介護者1人無料

●収益は全額、自然災害で被災した障害者の救援活動に使われます。

会場案内

西武池袋・有楽町線（東京メトロ有楽町線・副都心線、東急東横線、みなとみらい線直通）、都営大江戸線「練馬」駅中央北口から徒歩１分

お申込み方法

「ゆめ風であいましょう参加希望」とご明記のうえ、住所、氏名、 電話番号、参加人数を、下記のいずれかの方法でお知らせください。確認後、参加票をお送りします。定員(250人) に達し次第しめきります(入場料は当日精算)。

・ウェブサイト:「カタログハウスの学校」で検索

・Tel: 0120-545-450(平日の午前10時30分～午後5時)

・Fax : 03-5365-2289 (24時間受付)

・はがき:〒151-8674「カタログハウスの学校」

【共催】認定NPO法人ゆめ風基金/カタログハウスの学校

ゆめ風基金とは

阪神•淡路大震災を機に発足、地震などで被災した障害者を支援する団体。こむろひとしさんをはじめ各界の多数の方々を呼びかけ人とし、全国の障害者運動とともに被災障害者への救援・支援をつづけてい ます。初代呼びかけ人代表は永六輔さん。2005年に永さんから小室さんに引き継がれました。

チラシ背景写真 「ここは帰還困難区域(高線量区間を含む)原子力災害現地対策本部調整中」の立て看板　(撮影：たけい　さとし)